

会 議 名	第12回 まちづくりの勉強会
日 時	令和元年7月31日 午後7時30分～午後9時25分
内 容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 13名 事務局 5名 計18名 (10代：1名 20代：1名 30代：4名 40代：4名 50代：4名 60代：4名 70代：0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(10分) 進行：事務局 ② 文化的景観の継承について紹介(10分) 発言者：岐阜県建築士会飛騨支部 支部長 ③ グループ討議(70分) ふたつの表情を持った高山について、実際に若者にとって、それらは魅力的なものなのか、魅力的に変化させる方法は無いかということテーマに、各グループで討議 ④ グループ別発表(13分) ⑤ おわりに(12分)</p> <p>[文化的景観の継承について紹介] ・伝統的な建物を残したい。高山にとって必要なものであり、人間にとって大事なこと。 ・高山市と共に伝統構法木造建築物耐震化マニュアルを作成し、耐震改修工事を行っている。 ・さらに、伝統的な建物(石場建て)を新たに建てられるようにならなければいけない。 ・伝統的な建物は地域で守っていかないと守ることはできないため、現在、丹生川地域で景観の保全などの課題に取り組んでいる。 ・神奈川県真鶴町が「美の基準」を作成したときに、まち中をとにかく歩いたとのこと。 「里山散策」と題して、美しい景観が残っている丹生川の北方・法力地区を歩き、四季折々の状況を見ていただき、何かを感じてもらおうと取り組んでいる。 ・地元の方々とのコミュニケーションをとることが一番大事であるので、古民家(緒方家)においてジャズコンサートを行う予定。また、宿讎祭りにて、古民家(田中家)で子どもを対象とした紙芝居を上演する予定。 ・11月にシンポジウムを開き、景観の保全という課題に取り組んでいる方々に参加していただき、パネルディスカッションを行う。 ・岐阜県建築士会飛騨支部で地域貢献活動のひとつとして、丹生川中学の生徒に、地元のことをもっと知ってもらおうと「にゅうかわ学(丹生川の名所旧跡巡り)」を提供(3年間の取組み)できるようにした。</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】ふたつの表情を持った高山(まちなかと郊外) ・地元の良さを知ろう。 ・魅力があっても生活できなければ住むことはできない。 ・高山市はこうありたいという旗を立てる。 (例：石川県白山市の無農薬宣言→それに共感した農業従事者が集まり一大産業となった) ・地場産業を発展させることは、景観を守ることに繋がる。 ・地場産業＝伝統を守るために必要な要素(木、土、機械、職人)が無い。今のままでは壊滅的な状態である。 ・災害(土砂崩れ等)時に高山が孤立してしまった場合にも、自給自足できるインフラ整備をする。自ら電気を作る技術を教えてくれる施設があると良い。 ・郊外だからこそ情報産業が必要。すべての産業に情報産業を絡め、強くすること。</p>

【グループ2】ふたつの表情を持った高山（駅西と駅東）→ グラデーション（駅西と川西と川東）

- ・ 駅西 = 日常 新しいものをつくる
 - ・ 川西 = 新しいものと伝統的なものの混在
 - ・ 川東 = 非日常 伝統を残す
- } 車の要らない町（徒歩、自転車、動く歩道）
観光と暮らしが両立する場所
- ・ 回遊性を高めることが大切である。

[全体ディスカッションでの主な意見]

- ・ 町の顔は、立場や目線によって全然違うことに気づいた。
- ・ 参加している人の中で、移住者の割合が大きい。もしかしたら、地元の人が郊外のことを知らないのかもしれない。皆で高山市のことを知って、良くしていければよいと思う。
- ・ 伝統は自然に受け継がれていくものだと思っていたが、皆で意識して作っていくものだと分かった。

[アンケートより抜粋]

- ・ 旗を立てて宣言し、覚悟を決めることで、やるべきことがわかってくると思う。
- ・ 美しい飛騨の里山の景観を守るためには、地場産業（農業や林業）をしっかりと継続し、それに従事する人を確保するなどの取組みをしていくことが大切である。

[まとめ・次回について]

- ・ 仮に旗を立ててみることを意識して、まずは何をすべきか考える。
- ・ 第13回は、令和元年8月28日（水）19：30～21：30 市役所にて。